



第26回日本低侵襲脊椎外科学会

The 26th Annual Meeting of the Japanese Society of Minimally Invasive Spine Surgery

ランチオンセミナー7

従来法からの低侵襲化を目指した脊椎手術手技の変化
-医療材料や手術機器の活用-

講師



吉岩 豊三 先生

明野中央病院 こつ・かんせつ・リウマチセンター 副院長

日時

2023年**11月17日**(金)

12:30 - 13:30

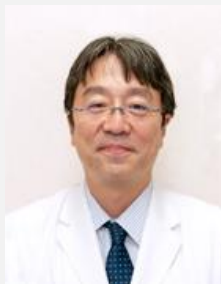
開催方式

現地開催

会場

アクロス福岡 4F 第1会場

座長



高橋 寛 先生

東邦大学医療センター大森病院 整形外科 教授

本セミナーは、日本整形外科学会教育研修講演としていずれかの単位が取得できます。

認定単位：脊椎脊髄病医単位 (SS) 1 単位

必須分野：[7] 脊椎・脊髄疾患 [4] 代謝性骨疾患 (骨粗鬆症を含む)

従来法からの低侵襲化を目指した脊椎手術手技の変化 -医療材料や手術機器の活用-

吉岩 豊三

明野中央病院 こつ・かんせつ・リウマチセンター

近年、さまざまな医療材料や医療デバイスが開発されており、手術手技が変化していくことは少なくない。脊椎手術の低侵襲化に医療デバイスの存在は必要であり、MEDやPPS、LLIFなどの恩恵により、脊椎手術の低侵襲化へと繋がっている。

脊椎の低侵襲化には、いくつかの重要な要素があり、出血のコントロールは特に重要である。これには適切な手術技術はもちろんのこと、フロアブル止血剤などの医療材料の使用が不可欠である。また、高齢化に伴って骨粗鬆症性椎体骨折(OVF)やびまん性特発性脊椎骨増殖症(DISH)などの疾患は、脊椎外科とは切っても切り離せない存在である。

OVFについては、早期に介入して治療を開始する方針へと転換しつつある。

すでに大腿骨近位部骨折では、早期治療のための診療報酬制度が導入されておりOVFも同様のアプローチが求められている。ただし、高齢者が対象であることが多く低侵襲化が必要である。OVFに対してvertebral body stenting(VBS)を用いて椎体形成を当院では行っているがステントを使用するため、注意が必要である。

さらに、DISHを合併した椎体骨折では、3-above、3-below以上の固定が必要という報告もあるが、セメントスクリュー(fenestrated screw)の登場やPPS、椎体終板貫通スクリュー(TSD: transdiscal screw for DISH)などの手術技術により、固定範囲の縮小や低侵襲化が可能になってきている。ただし、骨折の形態や骨の状態などを考慮し、個々の症例に応じて手術手技を工夫する必要があると考えられる。以上、脊椎手術においては、医療デバイスの活用や適切な手術手技、症例に応じた個別のアプローチが重要であり、低侵襲化を実現するために取り組んでいることを述べる。

製造販売元：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

デビューシネセス事業本部 Spine

〒101-0065 東京都千代田区西神田3丁目5番2号

販売名: Expedium Verse Fenestrated Screw システム・承認番号: 30200BZX00193000

販売名: VIPER PRIME Fenestrated Screw システム・承認番号: 30400BZX00203000

販売名: VBS ステントバルーン・承認番号: 30200BZX00409000

販売名: アクセスキット・認証番号: 302ADBZX00101000

販売名: インフレーションシステム・届出番号: 13B1X00204SS0033

販売名: Vertecem V+ 骨セメントキット・承認番号: 30200BZX00192000

販売名: 骨セメント用器械セット・届出番号: 13B1X00204DS0069

©J&J K.K. 2023 • 259835-231010